令和７年度　つかわき便り　　令和７年５月１日発行

ゆうらくせん 遊楽船５月号

施設長　福永政和

すっかり春爛漫、施設内のつつじが満開、色鮮やかに咲き乱れています。皆様、いかがお過ごしでしょうか。

さて、大変悲しいお知らせです。つかわきの最高齢者であった宮永史子さんが、４月６日（日）午前２時４５分、永遠の眠りにつかれました。享年８５歳、これまで懸命に生きた人生でした。最近、入退院を繰り返されており、その都度、覚悟はしていたもののその生命力に驚かされていました。今回は食事ができなくなったと聞き、面会に行きましたが、やせ細るその姿に、私自身つらい思いで見舞ってきました。宮永さんは開園当初から暮らす利用者のお一人、３５年間を共に暮らしてきましたので、おそらく私のことを息子のように思ってもらっていました。私が出勤しない日は、「今日、園長はどこにいるの？明日は来るの？」と職員へ寂しそうに尋ねていたようで、勤務日にはよく部屋を訪ねては、ほっとして笑顔になったり、ある時は愚痴をこぼされたりしていました。

思い起こせば入所当時は４０台後半、たいよう班で農作業などに元気に勤しんでいた頃が懐かしく蘇ってきます。初めての新幹線、初めての飛行機、初めての海外旅行・・・。いっぱい初めての事を経験し、多くの施設行事や旅行、外出の楽しい思い出を積み上げてきました。今年も近場でもいいから旅行ができたらと念じておりましたが、昨年の桜島への旅行（垂水泊）が最後となってしまいました。きっと、こうしたつかわきでの生活や思い出に満足して生涯をおえられたのではないかと思います。私にとって彼女は、長年お付き合いしたお友達「史ちゃん」です。史ちゃんが逝くときは、笑って見送ろう、いつもと変わらぬ普段着で見送ろうと決めておりました。お通夜も告別式も堅苦しくせず、「史ちゃんとのお別れの会」にしたいとの思いで、ご高齢のお姉様と一緒に、施設側でお世話させていただきました。大切な友達が逝ってしまったことは寂しくはありますが、ほとんどの利用者と職員が参列し、みんなで史ちゃんとのお別れができたこと、病の苦しみから解放され、安らかな眠りにつけたことに安堵もしています。

「史ちゃん、本当にお疲れ様、そして、ありがとう。ずっと天国からわたしたちのこと見守っていてください。」

食堂には、宮永さんの写真や花が置かれ、利用者の皆さんも手を合わせてくれています。利用者の一人が亡くなられることは、家族の一人がいなくなることと同じです。利用者の高齢化が進む中、ますます健康や体力面の維持のための支援が重要となっています。かけがえのない命、一度きりの人生、満足した生涯となりますよう「ここはお家、私たちは家族」史ちゃんのご冥福を職員と共に祈りながら、これからもこの方針で利用者を大切にした経営にあたってまいりたいと思います。

宮永史子さん、安らかに　ご冥福をお祈りいたします

闘病生活を繰り返されていました宮永史子さんが４月６日亡くなられ、お通夜、告別式に多くの利用者の皆さんと参列し、お別れしてきました。最年長であった史子さんはこれまで病と闘いながら最後まで頑張って生きてこられました。自治会や職員から供えられたお花に囲まれて安らかに眠るそのお顔は仏様の様でした。施設長からの弔辞、利用者を代表しての漆間さんからのお別れの言葉など、本当に愛された３５年間でした。

喪主の弟さま、お姉さまから「つかわきでの生活は、本当に幸せだったと思います。毎年の旅行や多くの行事など、皆さんと多くの楽しい思い出をもって天国へ旅立ったはずです。」とお言葉を頂きました。

天国から私たちのこと見守っていてくださいね。あらためてご冥福をお祈りいたします。

１班旅行（宮崎青島、垂水）

４月１４日（月）から１泊２日で２名の利用者さんは宮崎、大隅半島の旅を楽しんできました。

まずは青島へ。青島神社を参拝し、「幸せの黄色いポスト」で記念撮影。鬼の洗濯岩を眺めながら昼ご飯。夜は垂水のホテルで宿泊、ご馳走をいただき、温泉付きの部屋でゆったりと過ごしました。２日目はイオンモールでの買い物を楽しみました。今年度の初旅行（第１班）でしたが、それぞれの皆さんの状況を踏まえながら、今年度も少人数に編成した旅行を計画したいと考えています。

自治会主催の誕生会

４月２７日（日）、４月生まれの利用者さんの誕生会を開催、みんなでお祝いしました。４月生まれは児玉廣美さん、中崎一博さん、中馬章至さん、森上重夫さん、高橋浩二さんの５人です。

プレゼントを手に、二人ともとてもうれしそうにしていらっしゃいました。今年度も自治会を中心に楽しい誕生会を毎月開催してまいります。皆さん、これからも益々、お元気で。

親善球技大会

４月 26 日（土）、今年も桜島グラウンドで開催された親善球技大会へ参加しました。昨年は１分１敗でしたので、念願の一勝を目指して練習を積んできました。１試合目の対戦相手は九州大会出場経験のある常勝チーム、流石に惨敗。気を取り直して望んだ２試合目も 27 対 16 と健闘及ばず、それでも中崎さんのホームランや阪井さんの好プレイなど、練習の成果は出たようです。

目的の親善交流を図りながら、さわやかな汗でスポーツを楽しみました。また、さわやかな青空の下で食べる弁当も格別でした。

年々、どの施設も高齢化が進み、ティーボール（ソフトボールの改良型ゲーム）に参加できるチームは減ってきているようです。こうした大会が目標となって少しでも足腰を鍛えておこうという原動力にもなります。何よりも元気が一番、来年の大会を目指しましょう。